

米の娘ぶたの

利用拡大を

早坂 憲明 委員

問 大商金山牧場の肉は高く、安くならないかとの声も聞く。地元飲食店が専門に扱えるようにし、多くの町民に提供できるような対策は見いだせないか。

答 町長 「米の娘ぶた」は今も取り扱っている所があるが、町内でできるだけ食べて頂くよう、希望があれば

ば取扱について会社に申し入れたい。

その他の質問

● 商店活性化対策利用
ニーズ調査委託料について

● 国民健康保険料等の
収納率について

町への定住者に

支援を

須藤 典夫 委員

問 金山町に定住された方が21組35名の実績となった。定住された方々も、金山に住んで



「米の娘家」の多彩な品揃え

頂いているいろいと苦労されていると思うが、定住されたから町の支援はあるのか。定住された方が帰ってしまふことがないよう機会があれば直接支援して頂くことも考えていただきたい。

川崎総合政策課長

体験住宅は、現段階では今後増やすことは考えていないので、現体制で今後も引き続き行っていく。

実際に定住された方々の支援については、この方々に特化した施策はないが、金山町の一町民として、高齢者対策や子育て支援対策等、町の支援を活用していただきたい。

● 地域おこし協力隊、
支援員について

地域おこし

協力隊の実態は

栗田 保則 委員

問 金山に住み続けたという思いで、地域の住民にも溶け込んでいただき町の消防団員にもなった菅谷隊員がこの度帰られるとのことで大変残念である。29年度を含めてこれまで具体的な成果があったのか。

答 川崎総合政策課長
平成26年4月に2名の



定住につながる体験住宅

の協力隊を採用了。それぞれで授業と産業課に所属し、3年間勤めた後、質問にあった菅谷隊員は定住して頑張っていた。平成27年4月に入られた方は、中山間地域での山林

を活用しての自伐型の林業に取り組むということだったが、思うようにいかず他に移られた。

平成28年10月に入り、現在も頑張っている産業課の柴田隊員は、昨年度、バーチャルリアリティで成果を残していた。今年度は買物弱者対策に取り組むなど、自らが町に定住できるような内容も含め模索している。本人は3年間



買い物弱者対策に取り組む

の任期が終わった後も定住したいという意気込みで頑張っている。

● 農業系の三善隊員は、初心者ながらも農作物の生産に頑張っている。

● 空豆やチンゲン菜を栽培し、自分の敷地内に小さなピニ

● 平成28年10月に入り、現在も頑張っている産業課の柴田隊員は、昨年度、バーチャルリアリティで成果を残していた。今年度は買物弱者対策に取り組むなど、自らが町に定住できるような内容も含め模索している。本人は3年間

● 平成28年10月に入り、現在も頑張っている産業課の柴田隊員は、昨年度、バーチャルリアリティで成果を残していた。今年度は買物弱者対策に取り組むなど、自らが町に定住できるような内容も含め模索している。本人は3年間

● 平成28年10月に入り、現在も頑張っている産業課の柴田隊員は、昨年度、バーチャルリアリティで成果を残していた。今年度は買物弱者対策に取り組むなど、自らが町に定住できるような内容も含め模索している。本人は3年間

「やまがたの木」

の活用は

矢口 政一 委員

問 2020年に東京オリンピック、パラリンピックが開催される。選手村ビレッジプラザに使用される杉を、町としてはいつ頃納め、どのような関わっていくのか。

答 佐藤産業課長 町では60mを予定している。今後どのように納

めるかは情報が来ていないので、わかり次第報告する。

町長 金山の木が選手村のビレッジプラザに行くのは事実である。提供するのは冬だといっている。その後、乾燥させて部材加工して納入するといった段階になる。予定では2020年の第3四半期に選手村の解体が行われる。

その後、返ってくる金山杉を内装材として中央公民館建築に役立てる。オリンピックの遺産として活用されるものと思っている。



ビレッジプラザ 木材提供に感謝状

その他の質問

● 災害復旧の支援について

● 診療所の運営について

災害時放送の

改善を

寒河江 宏一 委員

問 8月の豪雨と台風等により様々な被害があった。町として一斉メールを活用し、災害時も情報発信をしっかりとということだったが、緊急時に町の放送が聞こえないという事態が発生している。

いざという時のためにも、放送が聞こえない地域に放送設備を設置すべきと考える。

答 宮林総務課長 運用当時にスピーカー設置場所に応じた音量を各区分席のもと調整した。火災等については、最大の音量で放送するようにしている。屋内設置機は高額に



行政情報放送のスピーカー

域の一番奥にある小沼邸だが仕事の関係で町外に出ることになったものの、故郷として頻りに泊まりに来ている。解体についても検討し始めた矢先、空き家の再利用の話が出てきた。

その後、有志で太陽光パネルの設置と雪室の整備を行い、NPO法人を立ち上げ、憩いの場や拠点として空き家を再利用する計画もある。

多方面から来る方々の、交流人口や関係人口の増につながる空き家の利用例になるのではないか。

究センターがある。小沼邸が雪を見られる一つの対象になれば面白い。

● 空き家に関しては、「使う」「売る」「貸す」が基本で、町内の不動産業者へ情報提供しながら危険空き家にならないよう留意している。

● その他の質問
● 中央公民館の管理について
● 地域防災体制の整備について

空き家の

有効活用策は

柴田 清正 委員

問 町の状況を見通すと空き家が増えることが想定される。有屋地

答 町長 新庄市には、夏に雪が見られる雪氷防災研



空き家活用が期待される